

令和3年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第6回専門部会 議事要旨

日 時 令和4年2月3日(木) 15:30~17:00  
場 所 オンライン(Zoom)(岐阜市役所6-1大会議室)  
出席者 サービス提供事業所 20名  
特定相談支援事業所 13名  
基幹相談支援サテライト 4名  
ほか1名 (合計 38名)

○検討テーマ…強度行動障がいについて

岐阜市における強度行動障がい児・者の実態把握等を行い、関係機関で理解を深め、各分野それぞれの役割等を相互理解することを目的として実施。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第6回専門部会の趣旨や流れについて

2. 岐阜市における強度行動障がい(児・者)の状況および潜在的なニーズについて(資料1)

岐阜市における強度行動障がい児・者の実態把握等に関する調査票の結果を報告。

3. 強度行動障がい在宅医療福祉連携支援事業(県委託事業)について(資料2)

ひまわりの丘地域生活支援センター 白村氏より、事業説明および事例紹介。

4. 高度専門分野支援事業(市委託事業)について(資料3)

ル・リアン相談支援事業部 平下氏より、事業説明および事例紹介。

5. パネルディスカッション(質疑応答・意見交流含む)

岐阜市における強度行動障がい児・者の実態把握等に関する調査票の結果や、質問について、パネリストが意見交換する。

<意見>

- ・強度行動障がい児・者に関わる支援機関が、他機関と連携するための工夫について。
  - 支援における苦慮を関係機関で共有していくことが、連携体制の構築につながるのではないか。
  - 福祉と医療で専門性に違いはあるが、福祉の現場での支援状況を医療機関に伝えていくことは必要。各々の分野の役割をこなしていくことが後の連携につながるのではないか。
  - 本人と関わる機会の多い事業所を中心としつつ、相談支援専門員が他機関と連絡調整していくと良い。
  - 福祉の支援体制を構築してから、医療との連携体制も構築していく順番が良い。

- ・支援者に求められる基本的な姿勢について。
  - 対象者の考えや行動について敏感に察知できると良い。そのために、対象者との付き合いを継続し、理解しようとする姿勢が必要。
  - 対象者の拘りやルーティーンを理解し、それに付き合い続ける姿勢が必要。
  - 対象者の生活範囲は本人が安心できる範囲に限定されやすい。時には安心できる生活範囲が広がるような積極的な働きかけも必要。
  - 対象者の言動にひるまず、一貫した関わりができるが良い。併せて、支援者自身が燃え尽きないように法人としてのバックアップもあると良い。
  
- ・強度行動障がい理解の促進や支援技術の向上について。
  - 障がいや支援技術についての座学だけでなく、実践経験を積むことも大切。
  - 特定の対象者への支援の継続による気づきもある。
  - 対象者の肯定的側面にも注目することで、強みを活かした支援ができる。
  
- ・担当職員による対象者への対応や思いを、他の職員と共有するための工夫について。
  - 担当職員による支援方法等を、他の職員に提案する形で伝えていく。
  - 支援における苦慮は一人で抱え込まず、職員間で共有できる雰囲気作りが大切。
  - 担当職員による対象者への関わり方の継続により見えてくるものはある。ただし、一人の職員が燃え尽きないような体制作りは必要。
  
- ・家族や支援者の苦労はあるが、対象者が一番辛い思いをしていることを理解する必要がある。
- ・対象者の行動を分析し、どのような環境が適切なのか関係者間で支援内容の合意形成を図っていくことで、家族の考え方や関わり方が変わってくるかもしれない。
- ・支援の実践で学ぶことと、座学で理解することがある。座学で理解したことは、実際に関わっている事例における支援に落とし込めると良い。

## 5. まとめ

- ・岐阜市における強度行動障がい児・者の実態等について、理解を深められた。
- ・強度行動障がい児・者の支援における連携や相談先として、まずは基幹相談支援サテライトや市委託事業である高度専門分野支援事業としてル・リアンが考えられる。
- ・県委託事業である強度行動障がい在宅医療福祉連携支援事業は、広域的な支援をしているため、必要に応じて基幹相談支援サテライトや障がい福祉課が仲介する。

## 6. 当日の様子



## 7. 当日アンケートの結果

### ①本日の専門部会について

良かった	… 68.4%
概ね良かった	… 26.3%
普通	… 5.3%
あまり良くなかった	… 0.0%
良くなかった	… 0.0%

### ②本日の専門部会について（複数選択可）

- ・強度行動障がい（児・者）の特性について理解が深められた … 78.9%
- ・強度行動障がい（児・者）に対する支援方法について理解が深められた… 73.7%
- ・専門的な相談機関（強度行動障がい在宅医療福祉連携支援事業・高度専門分野支援事業）について理解が深められた … 26.3%
- ・強度行動障がい（児・者）に関して、聞きたい話を聞くことができ、疑問が解消された … 0.0%
- ・貴事業所における強度行動障がい（児・者）への支援の提供・受け入れについて検討する機会となった … 10.5%

### ③本日の専門部会の内容は、強度行動障がい児・者への支援に活かせそうですね。

特に参考になった部分についてご記入ください。

- ・対象者と時間をかけて関わり、よく観察しながら理解を深める必要がある。
- ・対象者への直接的な関わりだけでなく、環境調整も大事だと思った。
- ・関係機関と連携しながら、対象者と長く付き合っていきたい。
- ・事例発表は、担当ケースの支援の参考になった。
- ・支援者の根気強さも必要だと思った。
- ・福祉と医療の連携の難しさを感じるが、必要だとも思った。
- ・言葉での指示より、視覚的な情報提示の方が対象者にわかりやすい場合があることなど学びとなった。
- ・対象者が体験していることを意識して関わる必要性を感じた。